

Save the World by

# インフォサイエンス株式会社

「何も起きなくて当たり前の世界」を実現するために、カスペルスキーは理想的なパートナーだった。

**Infoscience**

**■導入先プロフィール**
**インフォサイエンス株式会社**

従業員数：100名

業種：情報・通信

事業概要：ソフトウェア製品、受託システム開発、データセンター、システムインテグレーション

ホームページ：<http://infoscience.co.jp/>
**■導入製品**

Kaspersky Security for File Server

**■保護環境**

Linux

会社が円滑に事業を展開する上で最も重要なことは、情報システムを適切に運用することだ。1995年に創業したインフォサイエンス株式会社は、情報システムの開発と運用の両方を自社で行うことで数多くの大企業から信頼を勝ち得てきた。同社は今年に入って、カスペルスキーのファイルサーバー用セキュリティ製品「Kaspersky Security for File Server」を新たに導入した。なぜカスペルスキーを選んだのか。システム運用グループ・ゼネラルマネージャーの野々宮 長久氏に聞いた。

企業として円滑に事業を展開する上で欠かせないのが、情報システムの適切な運用だ。具体的な例としては、営業管理や顧客管理といった社内業務システムや、Eコマース分野における通販サイトの決済システム、キャンペーンサイトの運営など。こうした「情報システム」が正常に動かないと、当たり前だが業務に支障をきたしてしまう。

そうした企業情報システムの開発、運用を一手に引き受けているのが、インフォサイエンス株式会社である。設立は1995年。NEC、EDS ジャパンを経て同社を創業した宮 紀雄氏は、「商用インターネットとオープンソーステクノロジーの組み合わせで世の中を変えるITが実現できる」と考えた。果たして状況は宮氏の予想通りに進み、世の中のインターネットへの依存率は年々高くなっていく。

そのような環境の下、インフォサイエンスは確かな技術でインフラ面から数多くの企業を支えてきた。同社の社員は約100名。決して大きな会社ではないが、取引先には「伊藤忠テクノソリューションズ」「株式会社エヌ・ティ・ティ・コミュニケー

ションズ」といった大企業がずらりと名を連ねる。業界から絶大な信頼を寄せられる理由として、システム運用グループ・ゼネラルマネージャーの野々宮 長久氏が挙げるのが「D×D（ディー・バイ・ディー）ソリューション」だ。

## 開発と運用を自社で行う「D×Dソリューション」

「弊社では自社で開発したシステムを、自社のデータセンターで運用することを基本としています。まずコストを抑えた最小限の情報システムを開発し、運用の状況を見ながら大きく育てていくことで、お客様にとって最高の投資効果をもたらすことができるのです」

システムは開発したからといって、それで終わりではない。実際に運用してみて初めて改善点が見つかることも多いのだ。開発と運用を別々の会社が行っていると、そうしたフィードバックを共有するのも一苦労である。また、たとえば「システムが正常に動かなくなった」などのトラブルが発生した場合、開発会社と運用会社のどちらに連絡す

ればいいのかかわからず、結果たらい回しにされてしまうというのもよくある話だ。インフォサイエンスの強みは、この「開発」と「運用」の両方を自社で行えるところにある。

「同じ会社内だから部署ごとの連携もとりやすいですね。運用チームを交えて相談しながらシステム全体を構築していきますので、お客様のマシンスペックや回線品質など、運用のことまで考えて開発が行えるのです」

システム開発 (Development) とシステム運用 (Datacenter) のサービスを融合した独自の一貫サービス、それが「D×Dソリューション」なのだ。

業界トップクラスの実績を誇る同社は、これまでに製品の受発注システムからデジタルカタログ、SNSを用いたコミュニケーションサイト構築まで、幅広い案件を多様な企業から請け負ってきた。日本中のあらゆる業界と付き合いしてきた経験から、野々宮氏が強く感じているのが「セキュリティの大切さ」だという。

「当社がホスティングするサーバーの多くはWebサーバーで、外部からのアクセスを前提としているものですから、重要データや



個人情報の流出、サイバー攻撃の踏み台にされるといった被害は、決して他人事ではありません。そうした事件のニュースを頻繁に目にするようになったこともあってか、ここ最近には特にセキュリティを気にされるお客様が業界を問わず増えていると感じています。弊社は2004年に情報セキュリティの国際規格である『ISO 27001』を取得しているのですが、これを持っているかどうかを気にされるお客様は多いですね]

## カスペルスキーはアンチウイルスソフトの理想型

一般の企業にもセキュリティ意識の高まりが見える中、同社が2014年に入ってから導入したのが、カスペルスキーのアンチウイルスソフトだった。それまでずっと使い続けてきた別のセキュリティソフトがあり、性能には満足していたという同社が、なぜカスペルスキーを導入したのか。

「きっかけはお客様からカスペルスキーを使いたいという要望があったことです。そこで試験的に導入してみたところ、これはいいじゃないかというのが私たちの感想です」

導入にあたり同社が重視したのは、ウイルス検知率とシステムの堅牢性、そしてウイルススキャンによるサーバーへの負荷だ。いくらセキュリティが重要とはいえ、アンチウイルスソフトが原因で動作が遅くなってしまうは本末転倒である。なるべく軽く、速く、常駐していることすら感じさせない黒子のような存在——それがアンチウイルスソフトの理想型なのだ。

「逆に言うと、入っていることを意識させるような製品は選ばないですね」

さらに管理のしやすさもカスペルスキー製品の評価ポイントだという。直観的なUIと柔軟なスキャン設定でサーバーの稼働状況

に合わせて機能と負荷を最適にバランスさせられることが、管理側の負荷軽減に大きく役立っているのだ。

「こう言うとちょっと誤解があるかもしれませんが」と前置きして、野々宮氏は言う。

「カスペルスキー製品を導入してから”何も起きていない”んですよ。これはすばらしいことなんです。弊社ではよく『何もないのが当たり前』という言葉を使います。システムの安定化だったり、納期だったり、何も起きずに本来の予定通り進むのが理想なんです。それはカスペルスキー社も同じではないでしょうか」

## 「何もない世界」を実現するという理念

情報システムを運用するインフォサイエンスと、それをセキュリティ面で支えるカスペルスキー。一見すると異なる役割を担っているようで、目指すものは「お客様の安心」という点で一致している。それが表れているのが、インフォサイエンスのもう一つの事業の柱である「プロダクト事業」だ。長年のシステム開発経験で直面してきた様々な課題と、そこから得たノウハウをもとに、インフォサイエンスは2つのソフトウェアを製品化して提供している。

「統合メール監査システム『Spamghetti』は、メールによる情報漏えいの防止や、あらゆるメールの保存などを行うソフトウェア。また、統合型ログ管理システム『Logstorage』はPC、サーバ、ネットワーク機器などが出力するログ統合的に収集、一元管理するソフトウェアです。メールフィルタリングや統合的なログ管理といったジャンルの製品がない時代にこれらのソフトウェアを開発したことから、弊社のセキュリティに対する姿勢がわかっていたのではないかと思います」

自社開発のソフトウェアを通して、セキュリティの強化を積極的に啓蒙してきたインフォサイエンス。一方のカスペルスキーが掲げるミッションは「Save the World from IT threats (ITに基づく脅威から世界中を守る)」というもので、業種は違えど両社の理念には相通じるものがあると言える。

「何も起きない世界」を守るために、365日24時間稼働し続けるインフォサイエンスのデータセンターと、カスペルスキーのアンチウイルスソフト。両者は今後もタッグを組み、ITの脅威と戦い続ける。



インフォサイエンス株式会社  
システム運用グループ・セネラルマネージャー  
野々宮 長久氏

# KASPERSKY

Save the World

<お問い合わせ先>

株式会社カスペルスキー

〒101-0021 東京都千代田区外神田 3-12-8  
住友不動産秋葉原ビル 7F

<http://www.kaspersky.co.jp>

お問い合わせは  
[jp-sales@kaspersky.com](mailto:jp-sales@kaspersky.com)